

## 平成29年度第7回甲賀市スポーツ推進審議会 概要報告

1. 開催日時 平成30年1月29日（月）午後7時30分から午後9時00分まで
2. 開催場所 甲賀市役所 4階 401会議室
3. 議 題 \*協議事項
  - ・市民のスポーツに関する意識調査結果について
  - ・スポーツ推進計画素案作成について
  - ・今後のスケジュールについて
4. 公開又は非公開の別 公開
5. 出席者 委員 小澤委員、網委員、富田委員、山崎委員、西田委員、倉谷委員、村上委員、北川委員、今宿委員、谷口委員、西田委員 以上11名  
事務局 教育委員会事務局  
文化スポーツ振興課 古谷課長、瀬古係長、田中社会体育指導員
6. 傍聴者数 0人
7. 会議資料 甲賀市スポーツ推進計画（仮称）にかかる
  - ・意識調査の結果
  - ・基本理念と基本方針
  - ・施策の展開

### 8. 議事の概要

#### ○出席委員数の報告

審議会委員13名のうち、出席委員が11名であることから、甲賀市スポーツ推進審議会条例第5条第2項の規定により、会議が成立していることを事務局から報告。

#### ○市民のスポーツに関する意識調査結果について

会 長 協議事項（1）市民のスポーツに関する意識調査結果について協議いただきます。では事務局から説明をお願いします。

事務局 小学校の新体力テストの結果について、今年度の結果が出ていないので昨年度28年度の結果になります。1枚目は小学校の新体力テストの結果で、今年度の市と県との比較、その裏面が前回平成19年のときとの比較、それから同じように2枚目に中学校の結果について、市と県との比較、その裏面に平成19年との比較ということで載せさせていただきました。色で分けていますので分かると思いますが、小学校ですと、市と県と比べ、例えば長座体前屈あたりが県よりもずいぶん劣って、マイナス、

赤になっています。ただ、これについては、測定の仕方の問題もあり、一概に言えません。立ち幅跳びやソフトボール投げについては、ここ数年ちょっと弱いと言われていたのは確かです。それから、次のページの裏面ですが、平成19年と比べて10年間でこれだけまた落ちたという残念な結果ではありますが、やはり今の子どもたちの状況というか、前のこの会議でお話していただいていたように、色々スポーツする子としない子の二極化があるということもあって、こんな結果が当然に出てきたかなという風に思っています。それから中学校のほうは、小学校に比べますと、反復横とびであるとか、立ち幅、ハンドボール投げあたりが、やはり県と比べて若干弱いです。この傾向はうちの市だけではなくて、ほかの市町でも見られているようですが、そんな状況です。それから中学校の平成19年度の結果と比べた場合も、やはり一目見て全体的に体力が落ちてくるのかなという状況です。そんなことも踏まえながら前回お話しいただいたように、子どもたちの体力向上をもっとなんとかしてほしいというアンケートの声もございましたし、皆さま方からも、そういったご意見がございました。ただ、学校教育の中にこの会の計画がそのまま入っていくことはできませんので、その辺りは学校とも協力していきながら、学校でできない部分、例えば地域であるとか、色々なスポーツ協会、あるいは総合型スポ少も含めて、そうした子どもたちの体力をみんなとつなげていけるような形で今後進めていけたらいいのかなということを思いました。これを資料として入れていくのもひとつかなという風に考えているところです。以上です。

会 長 ありがとうございます。

委 員 このデータを全国のデータと比較するようなことは可能でしょうか。

事 務 局 全国レベルですと、例えば県と全国の比較は割としていますので、それをそのまま持つてくることは可能です。この表に全国の平均を載せて、市・県・全国という形ですることは可能です。ただ、平成19年の裏面のほうは市同士で比べています。1枚目の平成28年度の市・県・全国という形で載せることは可能です。その方向でいくのであれば、この表を変えて3項目の比較とすることはできます。しかし、3項目になると比較しにくいので、数字を載せるだけになりますけど。県との比較はどうか、国との比較はどうかということをする、またなかなか大変です。

委 員 数字も欲しいですが、これをグラフ化するのはだめですか。

事 務 局 できないことはないです。そのほうが分かりやすいでしょうか。細かい数値よりも今委員がおっしゃってくださる変化の様子がグラフだと割とすぐに一目でも分かるので。0.1とか1.いくつが違っていても、傾向が分かるのはいいと思います。

委 員 裏面の平成19年と29年について、小学生はこれだけ体力が落ちているということですか。

事 務 局 そういうことです。いかがですか。これは9年前になりますが。

委 員 本当に子どもたちの生活スタイルなどが影響するでしょうし、その学校の体育の時間だけでは、なかなか体力の向上というのは難しいことではあります。去年あたりからは全県下に倣って、休み時間に10分間運動とあって、10分間ですけれども体力向上にかかわるような運動を取り入れて、毎日しています。ある小学校の例ですと、2時間目終わったあとの中休みが20分ほどあるのですが、その内の10分間毎日なわと

びをしたり、それから50mダッシュを繰り返したりとか、それから色々なパターンで鬼ごっこしたりとか、走る、投げる、それから跳ぶみたいな基本となるところの10分間運動をやっています。その小学校のデータを見ていると去年1年間やっていた成果は若干見られて、改善の傾向にはあるのですが、学校でできるといえば、本当にそういう業間に休み時間に、体力作りをするとか体力の授業を週に3時間、2時間の体育の授業の中でというところになってくるのかなと思います。それから、子どもの生活とか、土日の過ごし方とかも含めて、スポーツ少年団をやっている子は運動量かなり多いとは思いますが、それ以外の子どもたちのその状況をどう改善していくのかというのを本当に地域だけでやらないとなかなか難しいように思います。

委員 　また元に話をぶり返して申しわけないのですが、やはり比較するなら全国と平均比較するべきではないでしょうか。視野が狭すぎませんか。

事務局 　県じゃなくて、市と全国とで比較するということですか。

委員 　そうですね。私はいいと思います。皆さんのご意見は。

委員 　滋賀県と全国とではどうですか。大体平均ぐらいですか。

事務局 　いや、やはり若干低いです。全国と比較すると県との比較よりもさらに低くなります。学力調査など、学校では、だいたい市と県とで比較することが多いです。おっしゃるように県と比べるよりも全国と比べてどの程度かということが必要でしたら、国との比較でもいいと思います。みなさんいかがでしょうか。

委員 　基本的には県のほうが僕がいいと思います。都道府県の教育のやり方によって、やはり差があると思うので、滋賀県の大きい教育目標があり、甲賀市がそれに乗かってやっているの、都道府県ですと、本当にレベルの高い所も当然ありますし、身近なところで比較するほうが私としては見やすいかなというか分かりやすいように思います。特に全国との差が大きくなればなるほど、「なぜ」ということもあるので、滋賀県としての地域の特性も当然あると思いますので、その辺りを見ながら近づいていく方向のほうがいいように思います。参考までに全国があるのは、全然問題ないと思います。

委員 　3つあったら本当に見る人によって、色々な見方ができるので、全国を入れてもいいように思います。

委員 　可能であれば。

事務局 　3項目を入れ、数字を並べるよりも、折れ線グラフという形で示したほうが見やすいですかね。甲賀市は、県よりこう、全国よりこうというのが一目で分かりますか。

委員 　棒グラフのほうが分かりやすいと思います。

会長 　分かりやすくしていただいて。

事務局 　基本全国を入れて、3本の棒グラフで示し、比較できるように、ちょっとやってみます。

委員 　確かに今の時点で、全国と比べてどうかということもあると思いますが、10年前と比べてどうかということも確認すべきだと思います。例えば、滋賀県は50m走が全国より高いといったように滋賀県は特別なのか。見方の問題かもしれませんが、10年前と比べたら、甲賀市は低いように見えるけれども、そうではない。県と比べたら低いように見えるけど、10年前は良かったということです。そういう時間的なこ

とも示した方がよいと思います。

事務局 2枚目の裏面に、それが載っています。平成19年との比較をしております。  
委員 失礼しました。

事務局 こういう状況です。

委員 全国で言えば、福井県はいつも上位にずっと入っています。何回か福井県に行っていますが、やはり中休みの業間タイムなども、ものすごくされています。それが直接影響しているかどうか分からないですが。だから本当に上位を目指しるのであれば、休み時間に子どもをもうちょっとやる気にさせないといけませんし、もっと中身を増やして時間かけて一斉にトレーニングをしていったら、かつ、どこの学校でもやれば、体力テストの結果はおそらく向上していくなという風に思います。

委員 福井県は、学力も高いですね。

委員 スポーツ少年団などで、小さい頃からスポーツをしている子どもも、もしかしたら多いかも分かりません。色々な要因があると思います。

委員 だいたい福井・舞鶴あたりは体力も同じようにデータを非常に重視されていると思うので、トレーニングはしておられると思います。

委員 学力も体力もテコ入れをされています。

委員 このデータでの本当にひとつの資料として、こちらの分厚い意識調査も大切ですが、子どもたちの実際のデータを積み上げたものですので、これがひとつ物語っていると思います。ヒントになるかと思います。

委員 子どもの生活で言うと、この前も話させていただいたかも知れないですが、滋賀県はスマホやパソコンの保有率がかなり高く、全国トップクラスです。ただ、やはりゲームをしている時間とかそういう時間は、滋賀県は上位になります。それが直接どれだけ影響しているかということとは分かりませんが。

委員 子どもたちの遊びも変わってきています。

会長 その他はいかがでしょうか。この新体力テストの結果について何か注釈は入れますか。

事務局 入れたほうがよいと思っています。

委員 この体力的なもので数値が下がっているのは、各都道府県の経済力というようなものも関係してきます。それから経済力のある県、例えば福井県ですが、色々な関係の企業でこれだけ収入があって技術を生かしたり、スポーツ施設を生かしたりと色々な形もありますし、一概に注釈を入れないと学校の先生は何をしているのかということになります。

委員 これだけ載せてしまうと学校の先生は何しているのかという誤解を与えるおそれがあります。そういう地域経済関係ともうひとつ10年の間に住宅環境が変わっていますので、それによってほとんどバリアフリー化が進んで、なるべく足を上げるとかそういう作業も無くなってきています。ですので、そういうアパート暮らしも多いので、平面なところで過ごしているとか色々な形の住宅環境もひとつの要因っていうのが、体力が落ちている原因にもなっていますので、もうちょっと何か注釈をちょっと付け加えることをしないと、読んだ人が誤解するのではないのでしょうか。

事務局 注釈を考えてみます。

委員 39ページのグラフの中で、運動やスポーツを行わない理由について、特に理由のない人という人が18%いらっしゃるということで、この人たちが何かをきっかけに始められる、何かそのきっかけづくりみたいなことができるといいのかなと思います。そういうことが計画に反映できればいいと思います。

事務局 40ページの下表ですが、横線の部分が「特に理由がない」という理由なのですが、60代、70代はそうかもしれませんが、10代、20代で「特に理由がない」というのは、割とあります。この辺りは、この中にいい選択肢がなかったからここにしたのか、本当に理由なしに運動する機会というか運動されていない方が多いのかというのは、なかなか深刻な話だと思います。これは運動が嫌いなのか、価値を見出してないのか、これだけでは分かりませんが。

委員 毎年、10代、20代が多いというのは、10代は勉学に励んで、20代は社会人なっても余裕がないということで、そこまでスポーツができないという、とりあえず社会について勉学についていこうという部分で多分数値が増えているのではないかなと思います。前向きに考えると、このように数値が増えているのではないかなと思います。また、60代、70代というのは、自分自身が動けないということ、全てが健康な体の人ばかりではないと思いますので、そういう部分でどうしても数値が上がってきているのではないかなと思います。

事務局 でもスポーツ、運動に向かわせるターゲットではありますね。

委員 23ページ以降、運動やスポーツの実施に関してですが、週1回以上が31.4%となっています。年1回以上とか、その横の月3回とか3か月に1・2回とか年に1回、これは運動していることになりますか。この程度では、ほとんどしないと同じことではないでしょうか。

委員 62ページの障がい者スポーツの関係で、障がい者スポーツの関心の有無ですけど、有るが28.5%、どちらともいえないというのが51%となっています。これは、どういう意味か、もうひとつ理解できませんが、私が思うのが、あまりそういう障がい者スポーツに接する機会があまりなくてよく分からないのかなと。それに伴って、次の64ページです。障がい者に関心がある理由としては、リオパラリンピックの観戦をしたということ、テレビ・新聞・雑誌・情報誌を見たというのが61%になっています。多分、こういうことでもっと障がい者スポーツをPRし、色々情報発信をしていけば、先ほどどちらとも言えないとっていた人に関心を持っていただけるかなという気がします。今後は、あらゆるメディアを利用するとか、色々なところで障がい者スポーツのことを、甲賀市の広報でも障がい者スポーツを取り上げていただくというのがいいと思います。また70ページに、スポーツボランティア活動の参加意向ということで、「参加したい」が40.3%となっています。年代別で見ると「機会があれば参加したい」10代がかなりたくさんおられます。中学生未満の方がこれだけの関心をもっているということが特異なことで、非常に大事な数字かなと思います。こういった方たちをボランティアの精神を含めて育てていけば、甲賀市の意識レベルが上がると思います。

会長 まとめるということではできませんので、どんどん意見を出していただければと思います。

事務局 前回クロス集計ではない方の調査について審議していただきまして、そのご意見を  
受けた中で次の協議事項に挙がっています素案にも反映はさせていただきます。例  
えば、委員がおっしゃった広報活動の有無であるとか、当初は入れていなかったの  
ですが、もうひとつの資料の11ページですが、推進報告で色々ご審議いただいた中  
で必要だということで、下線を引いた部分を前回よりも付け加えて載せさせてい  
ただきました。例えば、1番（障害者スポーツの推進）の中で、広報活動の啓発の  
部分もやはり大事だということで入れさせていただきますし、次の13ページにつ  
きましても、「する・支える」ではなくて、「見る」ということも入れるべきとい  
う意見もございましたので反映したつもりです。また、先ほどから見ていただ  
いている意識調査もこの結果をどうこうするというのは、とても難しいです。  
ここから何が見えて何をしないといけないのかということをお話いただ  
いていますので、できれば今申しあげたとおり提言していただくと計画の中  
に反映していけるのかなと思っています。そういった意味で見ていただきなが  
ら提言をいただければと思います。

会長 そうしましたら1番の意識調査結果についてはこのあたりで終わります。

#### ○スポーツ推進計画素案作成について

会長 次の資料については、前回の意見を反映したのがアンダーラインの部分  
ということでは、協議の2番になります。「スポーツ推進計画素案作成について」  
審議をお願いします。

事務局 先ほどの説明と少し重なる部分もありますが、1ページから5ページ  
まで、今の文言について、細かい意識調査の中で今の思いからご意見を  
いただいておりますので、そういった内容を盛り込めるかをもう一度確認  
をしていきたいと思っています。7ページにつきましては、「スポーツ関係団  
体のヒアリング結果を踏まえた現状と課題」ということで、本日の追加  
資料となっております、初めてご覧いただくものになります。この  
点について何か文言等の質問またご意見等ありましたら、お伺いしたい  
と思っています。11ページ以降の下線部分につきましても意識調査の  
結果であるとか、先ほど事務局から説明いたしましたが、何が  
見えてきてどうしていくのかということ。見せる文章にしてい  
きたいと思っていますので、この点についてのご意見をいただ  
いてもう少し深めたいなと思っています。もしご覧いただきま  
して、もう少し何か詳しい説明等が必要であればこちらから  
答えさせていただきたいと思っていますので、ご意見の方  
よろしくをお願いします。

委員 子どものスポーツというか学校との関連も含めて、11  
ページの2番「子ども体力向上の推進」というところの総合型  
地域スポーツクラブのスポーツ少年団等との連携というあたり  
とか、部活動のあたりですが、実際、総合型地域スポーツ  
クラブの中心となってスタートしていただいている方と、  
スポーツ少年団の指導者の方と連携するような組織で話し  
合うようなことはありますか。

事務局 現在はありませんが今後必要であると思っています。  
その2団体だけではなくて、スポーツ協会も含めて必要だ  
と思っています。

委員 それに関連して、運動部活動の課題というのが全国的に  
非常に注目されていて、文科省からも、昔から言われて  
いることを改めて出しているのだと思いますが、週2回

は休む必要があるとか、土日の練習は15時半以降してはいけないとか言われています。スポーツ少年団にも当てはまることなのですが、1日中部活動をしているイメージですが、文科省はいけないと言っていますが、そのあたりも含めてどうしていくのかなどの話し合いをする組織を作るといった見通しがあるのかということと、部活動の実態について、またお話いただけると思いますが、指導者派遣の問題とか外部指導者がどれくらいここに入っておられて、その方と学校との連携はどのように進んでいるのか、この先どう進めていくのかといったビジョンを甲賀市としてどのように持つのか。部活動の実態はスポーツ推進計画の特に競技スポーツとの関連は非常に強いと思います。ゆくゆくは学校で部活動をしな方向でいくのか、部活動の良さを残して今後も維持していくのか。高校とも関連してくるかもしれませんが。そうすると全県下にわたりますが、そのあたりは先生を中心にするかと思いますが。甲賀市としてはどう考えていくのか、学校の問題でもありますが、地域のクラブとか地域の外部指導者の方などとの関係からすると、この先というより今、切実な問題になっているのかなと思います。また、中学校の指導者の方が不足しているというか、自分の専門外を担当している先生がたくさんいます。以前にも言いましたが、スポーツ少年団から上がってきた子を見るのは非常に厳しいのではないかと思います。当然、保護者の方からも色々な意見が出てきて、「もっと中学校は練習すべき。」という思いでいる保護者もおられ、色々だと思います。練習を休みにしたら「この先生は熱心でない。」という風にみられる。そんなことが多々あるのでどうしていくのかご意見があれば皆さんいかがでしょうか。

事務局 大変貴重なご意見だと思います。当課としましては今年度スポーツ協会から入らせていただいて、スポーツ協会からそれぞれの団体に運動・部活動に対して何か支援ができるかどうかとか実際にしている競技団体があるのかとか、そういった実態を協会の理事会に開催していただいて、皆さま方でそれぞれの立場で今どういう関わりをしているのかとか、こういう関わりならできるとか、実際、部活動を応援したいけれども行きにくいとか様々な意見を出していただきました。また、中学校には校長会で参画させていただいて「部活動はどうですか。」という事務局サイドになりますがお話を聞かせていただいているところです。今後、スポーツ協会であったり、学校の先生方であったり、ひとつの場を設けて意見交換などをさせていただきながら、どういうふうにしていくのがベストなのかということをもっとお話させていただきます。部活動も学校の先生の立場もございまして、働き方改革といった国が話をしていますように、そういう形もございまして、どういうスタイルがいいのか、甲賀市にとってどうしていったらいいのかというのは、各団体を集めて話し合っていきたいなと思っています。皆様の意見も今いただきたいと思っています。

委員 補足ですが、スポーツ協会で理事会を開きまして、今の議題で話をさせてもらいました。本当に難しいので、まず実態で各競技団体はどうですかということで卓球協会に中学校に出向いていただきました。外部講師ということではなかなか難しいところで、教師でないものが入り込んで、ありがたい部分と困難な部分があります。他の競技団体は組織としてまだまだ確立されていません。それぞれの競技団体の外部コーチを受け入れたり交流を深めたりすることが理想です。実態としてはなかなか難しいところ

です。全国的にみても、外部コーチで成功している部分とトラブルが発生している部分もありまして、理想はあってもスポーツ協会としては難しい部分があります。スポーツ協会としては、指導者の育成をして、組織として理想に近づけていくということは確認させていただきました。

委員 実際、スポーツ協会（前体育協会）で、外部講師を入れるとどうしてもそこで何かトラブル（事故・怪我等）があると、外部指導者の負担が重くなる。費用弁済の部分、どういう手当がつくのか。そこが確立されていないとスポーツ協会・各競技団体ございますが、なかなかそこに指導に入ろうかという風になりません。また、各競技団体には現役でお勤めされている方がおられますので、放課後の時間や休みの日になると指導者の負担にもなります。現在は、学校の先生に負担いただいていると思いますが、整合性がとれていないのが実情です。総合型に関しましても、土日人を集めて小学校を対象、一部では陸上競技みたいな形で行っているのですが、限られたスタッフの中で責任感により動いている人ばかりがしていますので、ボランティアとしても無理がありますし、学校の先生としても無理があると思います。では、そこに何があればいいのか。手当があればいいのか、身分の担保があればいいのかといった単純な話ではないので、悩ましいと思います。委員がおっしゃるようにスポーツ少年団と総合型の関係で言いますと個人的なつながりはありますけれども、整合性に関してはスポーツ協会とか総合型、各競技団体が全て寄っての会合などは今までなかったので、あるほうがいいと思います。現在、総合型では低学年で体力を備えて、上の学年になった時にバレー・サッカー・野球などの少年団に送るということを行っています。それがスポーツ少年団からスポーツ協会に送るといった流れがどうしても見えてこないということが実情で、何年も続いているのかなと思います。先生がおっしゃるようにスポーツ協会の理事長をしていただいていますので、把握していただいていると思いますが、悩ましいことが多いです。総合型の方でも、しようという気持ちの人はいますが、時間的な制約があります。学校の先生も制約があります。この制約をどのように取っ払っていくと形になっていくのかなと思います。ただ、市民からのアンケートにあるように、もっとスポーツの場とか運動の場とか機会をとといったニーズはあるみたいで、そこを行政の中で取り上げていただければと思います。

委員 中学校の立場で言いますと、会議をしていただけるということは非常にありがたいです。方向性的には、働き方改革というのがありましたけれども、中学校の部活動自体が随分減るようになってくると思います。朝練も無くなる可能性もありますし、3、4月あたりから随分改革されます。これは、県が方針を示して、それを市が受けてということで、教育長名で方針を出されます。なぜ、教育長名独自でできないのかというと、顧問の先生の中にはすごく熱心でもっと部活をやりたい方もおられますし、逆に家庭もあって専門的でもない部活動を担当していない場合はなかなか土日の部活動にいけない、放課後も早く帰らないといけないといったギャップは、今まですごくありました。それを一斉にある程度のところで線引きしましょうということになります。教師も運動が好きな子どもも負担を減らす。例えばバレー部に入る子どもでも、体力や人間関係を作る子どもであったりバレーでトップを目指したい子どもであったり、その差も相当あります。中学校が受け入れたときに保護者の思いにも差が当然ありますので、子ども

もも教師の思いも様々ある中でひとつの部活動にしていくと今までしてきました。しかし、そこから今の働き方改革で大きく流れが変わるといので、丁度そういう会議を受けながら甲賀市として、スポーツ協会として、スポーツを子どもたちにどのように提供していけば、将来的に協議思考になるのか。スポーツを通じて幸せを感じる甲賀市にいきつけるのかといった方向につながるといいます。色々な団体がざっくばらんに話をすべきだといひます。個人的には部活動で切って、どこかのクラブチームやスポーツ少年団に行くべきだといひます。スポーツ少年団も小学生だけではなくて中学校のスポーツ少年団もやっているところもあります。子どもたちの思いを受けるそういう受け皿があると、「もっとやりたい」といひた子どもの受け皿ができ、さらにクラブチームとして、オリンピックなどの本当の競技思考ができるといひたシステムがちょっとずつできていくためには人材も必要ですし、市として考えていただけるといひかなといひます。中学校の現状はそうなっています。

委員 理想で言いますと、例えば、小学生対象でスポーツ少年団のバレーがあります。中学校で今日はバレーが無いといひときには、中学生が小学生を教えにくる。そこには指導力もついてくるし、小学生にとって年齢の離れた指導者よりもこやかに練習ができるということもあります。場の提供でいひと競技種目に限りますが、中学校も高校もボランティアといひ形で交流を結んでいくと、小学校のスポーツ少年団の指導者の充足と中高生の運動の場の提供にもなると思ひるので、そういう形の循環をしたらいひと思ひます。ただし、競技種目（サッカー・野球・陸上・剣道・バスケ・バレーなど）に限定され、ニュースポーツなどの特殊なスポーツになると中々それができないといひことはありますが。

委員 中学生が指導する立場であれば、自分たちはどうするのですか。

委員 自分たちは学校の限られた時間で場を提供します。今は、昔のような朝連などは難しい状態であり、中学生はもっと動きたいが、学校が使わせない状況になつてくると、場の提供をそういう形に持つてくるということも1つのやり方であると思ひます。自分が練習して強くなりたいと思ひているのに、学校自体が使えない、ここを前提としています。

委員 おっしゃることは分かりますが、最初から「小学生らを教えに行こう。」と思ひている子はいいが、自分たちが練習して強くなりたいと思ひている子は、小学校の指導に当たるといひことでは、おもしろくないと思ひるのではないですか。

事務局 時間的には難しいと思ひますが、競技団体で昼間中学生が動ける時間帯に競技団体が必要なところに行けるのであれば、その子は今度はスポ少の子を教えるのではなくて、上のレベルの人と練習をしていけるわけなので、そういう方向も考えていかなければならないと思ひます。下ばかりでなく、上のレベルの人とも練習ができるような場があつてもいいと思ひます。自分で部活動をしながら、あるときは小学校に教えて、教える楽しみも知り、もう一つは中学校でしている以上のレベルのところでもできといひようにしておくと、その子たちは充実できるのかなといひ気がします。

委員 子どもたち同士なので、うまく循環していつていると思ひます。部活動がないときに、卒団してちょっと先輩面できて、コートが空いていたら、監督から許可をもらつて中学校のネットを立てて、6年生を入れてといひ形で、6年生にしたらレベルの高

い練習ができてという感じで。中学校で練習ができないときは、外部コーチに見ていただいているので、高校のほうに練習に行かせていただいたりとか、回っているかなと思っています。時間が許す限りで、自分たちをしたいこともして、分かっていない小学校には次続けてほしいという思いがあるので、指導してつなげていくということを中学生なりに考えているように思います。

委員 十何年前に娘がスポ少から中学校に入るときに、地域ではスポ少がいっぱいありました。中学校に行ったら、学校がバレー部をなくすということがありました。めったにやらないようなスポーツなら仕方ないのですが、バレーボールは国民的なスポーツであり、スポ少のチームもたくさんあるのに、ひどい話でした。何とかここまで来ていますが、公式戦に出られないといったこともありました。当時、県の体育協会の理事をしており、学校ではしたい子がいるのにする場がないという話をしました。力のある方もおられたが、結局責任を取らない状態でした。指導者に人が足りないなら、校長名でもいいのではないかということも話しましたが、できませんでした。結局、ボランティアに入っただき、何とか子どもの夢をつないでいきました。スポ少がなくなったら、その地域のバレーボールが消えてしまいます。スポ少をしていただけるのは、崇高なことだと思っています。県のバレーボール協会の会長から校長や教育長にも掛け合っていたが、結局できませんでした。

委員 それは少子化の影響もあるのではないですか。やりたい子がいても、クラブに入ってくる子がなかったら、1年から3年になってきた時点で入ると決めています。次の子が小学校6年に上がっても、したいと決めておられたら、入れないわけです。

委員 バレーボールはスポ少もありましたが、だれも責任を持って動かせませんでした。結局ボランティアをお願いして、続いている状態です。

委員 中学校の現状ですが、学校にバレーボールができる先生が来られても顧問にはつけていただけません。担当する部活動は少ないが、先生も少ないから担当できないと言われますが、野球も3人、バスケも3人の顧問がおられます。バスケ担当のうち1人はバレーのできる先生です。バレーは主任の先生がついてくださっており、その人と外部コーチという体制で、何らジュニアクラブから変わりありません。中体連の登録上、部活動でないと試合に出られないとのことで、2年前に部活動にはしていただきましたが、現状は変わりません。外部コーチと1人顧問で試合には出られるようにしておくということですが、バレーができる先生がいらっしゃるのであれば、保護者としては何とかしたいという思いがあります。学校と保護者とでずっと話し合いを続けてきて、部活動にはなったが部活動ではないバレー部があるわけですが、バレーができる先生がおられるなら、顧問に就けていただきたいと思います。

委員 そういうことをできるようにしてほしいです。

委員 学校のクラブとして、先生方に負担がかかっているという状況です。働き方改革で、週に1回は休みなさい、土日連続はだめなど、スポーツ庁が出した問題ですが、中には強くなりたい、もう少しレベルアップしたいという子がいると思います。楽しむ子は楽しむなど色々な層があると思います。日本でクラブといえば学校に限られています。私は、20年ほど前に日本からドイツに行って、クラブに入っている人に話を聞いていると、一般のクラブの中に小学生も中学生も高校生も一般の人もみんないます。

一般の人といっしょにコミュニケーションしながら、指導も受けながら伸びていって、本当に強くなってきたら、ナショナル選手としてどんどん上げていく。大会をするにも全員が手伝ってやる、そういう環境になっています。今、日本では教育の改革、働き方改革、大きな過渡期に来ていると思います。そういう受け皿を例えば一般の競技団体に補助を出してみてもらうとかいっしょにやってみるとか、そういうことを考えていかないと、一生懸命やりたいのにできない、今、中学校の話が出ていますが、人が揃わないとできないなら、1つのクラブの中に一緒に入れてやれば良いと思います。日本もそういうことを変えていくべき時代に来ているのではないかと考えています。そういう環境をつくるサポートを我々がしたら、やりたい子は集まると思います。ただ、受け皿を作るのに、委員がおっしゃったように、働いており、ボランティアだけでしんどい、その責任を持ってけがしたらどうするのか、そこまで責任問われたら困るということで、枠組みはしっかりして、受けようと思ったらある程度支援をしていかないといけないと思います。そういう周りの支援をどうやっていくのかという仕組みづくりを考えて行っていただければ良いと思います。

- 委員　　そういうことをやろうとするのでできたのが、総合型スポーツクラブですが。
- 委員　　総合型が面倒を見切れるのかという疑問です。トップアスリートになりたい子もいます。誰でも行けるクラブで専門的にやらせようとするれば、そこまでは難しいのではないのでしょうか。
- 委員　　総合型ができる前につくろうとしていたときに、学校の部活動、中体連とも相談をしていかなければならない、詰められてなかったと思いますが、中学校の部活動をいったん無しにして、東近江市でやられていると伺いましたが、部活動を担当されていた先生は総合型クラブに関わりながら、居住地でクラブチームを立ち上げていくという話も出ていました。すぐにはできませんので、検討をしながらここまで来ました。働き方改革や部活動の改革がやっと現実味を帯びてきた今、指導者不足を解消をしていくために、どうテコ入れしていくか、新しい仕組みをつくるか、地域でクラブを立ち上げるのかといったことを検討する必要があると思います。
- 委員　　文科省はどうしたいと考えているのでしょうか。学校のクラブは無しにしようと思っているのでしょうか。中体連に入らなければ、公式戦に出られないわけですし、日本中で統一的にやったほうがよいと思います。
- 委員　　中体連や高体連は学校教育の一環なので、出たかったら出られるということですが、クラブのない中学校では他の中学校といっしょにやったらどうか、チームを組んだらどうかということを含めて、やりたい子がいるのに、クラブがないから出られないというのは問題であると思います。
- 委員　　バレー部の担当が先生が集まって、チームに分かれようかという話になると一番いいと思います。
- 事務局　　実際、連合を組んでいる中学校もあります。ただ、組むにあたっては、レギュラー落ちが発生するのでお断りといった話があるなど学校の状況が色々あり、難しいようです。
- 委員　　試合に出ようなら個人でも出られるのに、クラブがないから出られないというのは、教育的に一番きついと思います。

事務局 こういう話を競技団体であるとか学校サイドであるとか総合型地域スポーツクラブとかスポーツ少年団、そういう方たちに声を掛けさせていただいて、フリートークの形を取らせていただくとお互いの立場や思いが分かるので、できるだけ早い時期にそういう会を立ち上げてすすめていきたいと思います。

委員 できることからしていけばいいと思います。できることの一つが人事で、一番難しいのかもしれませんが、1つの学校に指導者が固まったり、生徒がいるのに指導者がいないなど、年齢も種目も甲賀市には優秀な人材がいっぱいいると思うので、人事はお金がなくてもできるし、活性化すると思います。陸上のスポ少に入っている中学校に行くとクラブがないという問題があります。

委員 クラブの指導者が中学校に指導に行くのは難しいのですか。

委員 中体連には、保護者が審判するなどして出してもらっています。指導者がいれば小学生はいっぱいいます。

事務局 中体連などくりがある部分を思うとそういうことが出てきます。している人をみんな集めるような大会があるといいのですが。

委員 どの項目になる分かりませんが、大学と提携しています。そういう専門機関にスポーツのノウハウを教えていただいて、甲賀市のスポーツのレベルアップや色々なサポートをしていただければと思います。立命館大学などは医科学的なことや栄養学なども専門的にやっておられます。障がい者スポーツでいうと、甲南高等養護学校があるので、市民もいっしょに障害者スポーツをやってみようという動きもしています。連携を取りながら、いっしょに参画できるような、協力しながらやっていければと思います。

#### ○今後のスケジュールについて

委員 大分時間のほうが来ています。素案に意見を反映させていただくということで、特になければこれで次に行きたいと思います。それでは、3番の今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

事務局 今後、今日お話いただいた内容をまとめて、文章化、グラフ化しながら、素案をつくり、パブリックコメントを受ける状況になります。それまでに再度皆さまに見ていただくのがいいのか、事務局に一任されるか決めていただき、今後のスケジュールを決定したいと思います。パブリックコメントにはしばらく時間をとらないといけませんので、4月からというのが難しい状況になっているかもしれません。

委員 意見をどれくらい反映していただけるのか見たいとは思いますが。

事務局 箇条書きになっているのは文章に直します。意識調査の結果も反映させます。推進計画に関しては、パブリックコメントをいただいて、まとめたあと、答申として教育長にお渡しするということまでとなります。職としては、31年11月30日までお願いします。みなさんが了解いただけるなら、パブリックコメントはできるだけ早くしていきたいと思います。パブリックコメントを反映させたものを見ていただくということでいかがでしょうか。

委員 時間的制約があるので、送っていただいて、どうしてもという部分があればということはどうでしょうか。

事務局 逆に、素案を完成させて、みなさんにお渡しをして、パブコメに上げる方向で調整するということでしょうか。

委員 事務局案のとおりでかまいません。

事務局 次回は、パブリックコメントを集約してから寄っていただくこととなりますので、次年度になる見込みです。答申はでき次第となりますが、30年度中になると思います。

委員 4月をまたぐと事務局や学校に異動があるので、できるだけ年度末にさせていただきたいです。また、一から読む人がいるともったいないと思います。

会長 以上で終わります。

事務局 公開非公開については、個人情報が含まれないことから、すべて公開とさせていただいてよろしいでしょうか。30年度中には答申できる形でがんばりたいのでよろしくをお願いします。審議会開催は、委員長、副委員長に相談させていただきます。以上で、審議会を閉じさせていただきますが、最後に副会長からあいさつをいただきます。

副会長 意見をたくさんいただき、ありがとうございます。せっかくの意見なので、反映させていただくことを願っています。中学校の部活動、総合型スポーツクラブ、スポーツ少年団といったところで本当に大事な意見をいただいたので、甲賀市の子どもたちが成長できるように。一番思ったのは、小学校の新体力テストで小学生が落ちていっているが、小学校5年生から中学校2年生への伸び率は滋賀県が結構いいのです。小学校では低下といいながら、中学校はがんばっていると思います。熱い思いがあるので、巻き込んで、子どもたちの成長を願っています。

○閉会

以上